表のイルミナティに属するバーバリアン・イルミナティ創設者アダム・ヴァイスハウプト。１８３０年、彼は亡くなる直前に弟子たちを集めこう話していたようです。

「あらゆる陰謀を、我々イルミナティになすりつける“闇のイルミナティ”がいる。内部にも巣食っている、気をつけるのだ。」

アダム・ヴァイスハウプトのいう“闇のイルミナティ”が裏のイルミナティでしょう。
このアダム・ヴァイスハウプトの遺言が、表のイルミナティと裏のイルミナティの実態だったのかもしれません。

表のイルミナティの地上での主力はブラック・ロッジの太守の一人であるカナンの血族、「カナン族」です。
「黒い貴族」と呼ばれる彼らは、地中海のフェニキアやヴェネツィアを本拠としていました。
やがて彼らはオランダ・アムステルダムに本拠を移し、やがて英国の乗っ取り攻撃を開始していきます。
1600 年台のことです。

カナンはノアの３兄弟であるセム、ヤペテ、ハムの内、ハムの血統です。ハムは黒人種とされヤペテが白人種、セムの血統がユダヤ人とされます。
表のイルミナティである「カナン人」は色が黒く「黒い貴族」と称されますが、「宮廷ユダヤ人（ホフユーデン）」とも言われます。「カナン人」はそうではないのに「ユダヤ人に成りすました」のです。

悪魔崇拝でもある表のイルミナティは、「成りすまし」と「内部乗っ取り」が常套手段だったのです。ところがその表のイルミナティが、自分たちが得意とする「成りすまし」「内部乗っ取り」を裏のイルミナティから受けていたようです。

実際に、表のイルミナティが主力であったはずのイギリス東インド会社は「300 人委員会」となり、世界破壊の悪魔崇拝には変わりませんが、完全な裏のイルミナティの組織に変質しています。